

西米良だからできる

西米良だからやらなければならない

西米良ならではの教育

ICT活用実践



かりこぼうず大橋

西米良村のICT教育



西米良村教育委員会
教育長 古川 信夫 氏

授業改善を目指したICT活用

西米良村では、平成24年からICTを計画的かつ段階的に整備しています。そして、平成28年には一人一台のタブレットを導入し、授業改善個に応じた指導の充実を図り、子どもたちの学力向上を目指しています。

授業改善には、授業支援ソフトとデジタル教科書を利用し、個に応じた指導の充実には、eライブラリを利用しています。

これらのICTは、それぞれの役割を明確にして導入しました。デジタル教科書の教材を電子黒板と連動して授業をすることで、職員が効率よく視覚的にわかりやすい授業ができ、タブレットを使うことで、児童生徒が自分の考えをクラス内に効率よく共有でき、職員がスムーズに授業を展開できます。そして、効率よく授業が展開できることで児童生徒の『自力解決』や『協同解決』の時間を保障できます。これまでは、授業時間が足りないという課題がありました。ICTを使って授業をするようになってからは、時間内に授業が終わるようになり、まとめやふりかえりの時間もしっかりと取れるようになりました。

ICTを導入することで、意図した授業改善につながり、「児童生徒の学びの時間の保障」といった効果が出ています。

ICTの整備計画

平成28年

タブレット導入

授業支援・学習支援ソフト
校内ネットワーク構築
中学校デジタル教科書
国語、数学、理科、
社会、英語

平成27年

各教室に電子黒板導入

小学校 6台
中学校 4台

平成26年

中学校デジタル教科書

社会、理科

平成25年

デジタル教科書

小学校 算数
中学校 理科

平成24年

各教室に書画カメラ設置

小学校 6台
中学校 5台
デジタル教科書導入
小学校 国語、算数
中学校 地図、数学

充実した職員研修

ICTの効果的な活用方法について、さまざまな意見を共有するために、研修会や授業研究会は、小学校と中学校が合同で行っています。研修会に参加した職員にとつて、実り多い研修になるように、職員から研修で知りたい内容や授業で実践してみたいことを事前に募集し、研修内容に入れるようにしています。

授業研究会では、職員が授業で感じた良かったことや課題・改善案をタブレットに書き込み、電子黒板に投映して共有する取り組みを行っています。授業研究会では、これまでも積極的な意見交換がされていました。ICTを取り入れるようになってから、職員もさらに主体的に取り組むようになり、さまざまな意見が共有されるようになりました。

授業をしやすい環境を構築

職員から寄せられる要望の中には、ICTの操作方法を知りたいといったものが多くあります。その要望に応えるため、ICT支援員の協力のもと、動画マニュアルを作成しています。この動画マニュアルは、利用目的ごとや機能ごとに分けて小学校と中学校に共有されているので、職員からも使いやすいと好評です。

また、職員室にICTに関する「お悩み相談ボード」を設置しています。この「お悩み相談ボード」には、機器の点検や調整の依頼、授業支援ソフトの使い方を教えてほしいなど、職員の困りごとが書けるようになっていきます。この困りごとを解決するのが週2回の一日滞在中で訪問するICT支援員です。職員の困っていることを、すぐに解決することで、授業でICTを使いやすい環境を整えています。



タブレットを使った授業研究会



「お悩み相談ボード」に対応記録を残す

ICTを活用した授業

タブレットをさまざまな場所へ持ち運べる

学校敷地内のどこからでも無線LAN環境を利用できるようにしたので、校内だけではなく、校庭でもタブレットを利用できるようになりました。児童生徒は、観察や探索などで気づいたことやおもしろいと思ったことをタブレットで撮影し、記録しています。



タブレットで撮影（記録）

学習支援ソフトで個に応じた学習と指導方法の改善

eライブラリの導入目的は児童生徒が、個の習熟度に応じた教材を使って、主体的に学習することで基礎基本の定着を図ること、職員が学習履歴から指導方法の改善をすることです。授業の中で利用することはもちろん、宿題として

持ち帰り学習（ダウンロード学習）も始めました。学校を訪問したときに、eライブラリを使って学習をしている児童生徒を見ましたが、興味関心や学習意欲が高まっており、主体的に学習する姿が見られました。

eライブラリは、学習した成績が保存されるため、継続的に利用することで、クラス全体の理解度や個人の習熟度を把握できます。職員には、児童生徒の学習履歴から、指導方法を検討し、次の授業につなげてほしいと思っています。「児童生徒が学習する」「職員が学習履歴から指導方法を改善する」「そして授業を実践する」といったサイクルで、児童生徒の基礎基本の定着と学力の向上を目指したいと思っています。



ドリルで学習内容の定着を図る

授業支援ソフトで授業改善

授業支援ソフトは、授業改善を図るために導入しました。児童生徒のタブレット画面は、教師のタブレットに一覧で表示されるので、児童生徒の学習の進み具合を確認できます。また、電子黒板に一覧を投映させることによって、効率的に互いの情報を共有し合えるだけでなく、他者の考えと比較したり、関連付けたりすることが視覚的にできるようにもなります。

授業支援ソフトを利用するようになってから、職員は授業の時間調整がしやすくなり、まとめやふりかえりの時間をしっかりと確保できるようになりました。また、児童生徒もタブレットの画面を電子黒板に表示させ、書き込みながら発表できるようにしたり、写真や文字を使って、見やすい資料を作成できるようにもなりました。



考えを比較したり、共有したりする

今後の展望

西米良村は、自然豊かな環境にありますが、大きな商業施設や銀行もありませんし、都市部に行くためには自家用車での移動が欠かせませんので、村外の学校との交流も難しい環境です。そういった生活面や学習面のハンディを解決するために、ICTは重要な役割を担っており、児童生徒の「情報活用能力」が大切だと思っています。インターネットなどを上手に活用することによって、生活面での課題を解決することができ、学習面でも、テレビ会議システムを利用した遠隔教育を推進することによって、さまざまな地域の学校と交流できます。

これからの西米良村では、情報活用能力を基盤とした、児童生徒の資質・能力を育成することが大切です。そのためにも、児童生徒が探究し、見つけた課題をICT等の多様なツールを効果的に使って自力解決できる学習活動が必要となります。これからも、小中合同の研究をさらに充実させ、「授業改善」をねらいとした実践的研究スタイルを追究し、指導方法の改善を重ねること、児童生徒に『未来につながる学力』を身に付けさせたいです。



職員が教材を提示して解説



カメラで手元を拡大して投映



生徒が新聞記事を提示して発表